

が押し出してくるのを防がねばならないので、三重の圍堰と、念入りの横向き控へと、下層土の危険な壓力を検し、制御する、もつとも精巧な掘抜き井の施設を要する、やり難い仕事である。技師たちは、ちやうどもつとも重大な時機に臨んで、突然、自分らもつと質の悪い、地方の政争といふ流砂に捲き込まれてゐることを發見した。熟練者が續々解職された。全建設力は、この上ない悪い時機に、瓦解の危機に瀕した。技師たちは極力抗争して、排水を完了し、渠底にコンクリートを流し込む作業をへるまで、無責任な後釜を肝腎な人間と入れ換へようとするのを、どうやら喰ひ止めることができた。

コンサルティング・エンジニア會社の社長として、ゴータルス將軍は、官憲によつてニュー・オルリーズへ召喚された。一部の官憲は、當時かれが、悪性の流行性感冒で入院ちうであつた事實を知つた後まで、公然、その「命令違背」を云々した。入院してゐなければ、當然ニュー・オルリーズへ出掛けていつて、持ち前の虚心坦懐な態度で、訊問に答へたであらう。かれはその私信において、全體としての政治家を評して、かれらは信用できない、——それは確かだといつてゐる。かれは常に、責任ある人物一人に權力を集中することを望んでゐた。政治家は常に、委員會や理事會を通して、權力を分散せよと圖つてゐたのだ。

「大戦ちう及び運河の建設ちう、いくつかの『委員會』と、關係をもつた經驗から、それに對して與へ得るもつとも適切な定義は、『委員會』とは、長くて、細くて、木造であるといふことであります。」ゴータルスは、ニューヨークのロータリー俱樂部での演説で述べた。「……アレキサンダー・ハミルトンはかつて、

議會の委員會を新設する行爲を指して、これは悪い方策だと申しました。リンコルンは、委員會といふ組織をもつて、政府を欺くものであると申しました。委員會には責任を負ふ首班がなく、しかも、けれども、他に轉嫁することによつて、責任を回避することができるのであります。われわれは常に、仕事失敗した場合、責任をとるものがあることを望むのであります。」

ゴータルスが顧問技師として招聘された、公共用のトンネル工事で、ある事故が起つた。けれども、かれ自身は、後の建設工事には全然關係してゐなかつた。あるとき豪雨のために、地面は水浸しになり、つひにトタン屋根に水をぶちまけたやうに、どの山からも一齊に奔流が落下するやうになつた。次いで襲つた暴風雨は、忘れられてゐた小川を急流と化し、その急流が、うつかり氣づかずにあつたトンネルの通風坑に流れ込み、幾人かの頑丈な労働者を鼠のやうに溺れさせた。けれども、例によつて責任は非常に廣い範圍に互り、非常に細分されてゐたので、だれにも責任を負はせることができなかった。それを聞いたゴータルスは、簡潔に、「禍因は、あまりにセオドル・ルーズヴェルトが少な過ぎるところにある。」と評した。

この溢水事件には、だれか通風坑を開放しておいた過失の、極めて明白な責任者がでなければならぬはずである。が、かれをして、さういつた他の運河地帯の、人情のある専制王たらしめる別なルーズヴェルトがゐないので、ゴータルスはいよいよ、デモクラシー組織のために働らきたくなくなつてきた。アレクサンダー・ハミルトンといふ政治家は、かれが引合ひにだすのに打つつけの人物である。大戦後における消耗

と混乱に面して、將軍は腕がムヅムヅしてならなかつた。一九一九年の九月、警官ストライキの當時、コッ
ド岬運河事件の證人として、ボストンに向いたかれは、軍人らしい満足さでかう述べた。「ニューヨーク
は、一切異状ありませんでした。護國軍が治安を維持してをります。私は、ボストンが一步も退かないこと
を希望します。いづれそのうち、労働者の問題も、早晚解決せねばなるまいと思ひますが、われわれは、今
のうちにその解決をつけて、片づけてしまふ方がいゝと考へます。」

十月、ニューヨークからニュー・オルリーズへの命令にだした手紙には、かう書いてやつた。「當地及び
全國に亘る罷業の狀勢は極端に悪化し、いかなる結果を惹起するか豫想を許さぬ状態にある。鐵道従業員友
愛會が指導權を任せられた一九一六年には、彈壓を加ふべき狀勢であつたが、現在の狀勢は、その當時以上
の強力な對策を必要としてゐる。政府には、その強力な對策がないのではなからうか。造船所ストライキ鎮
壓のために、軍隊が派遣されたが、だれか々怖れ氣づいたので、派遣軍は、軍隊輸送任務以上には使用され
ずにある。炭坑罷業に對する大統領の威嚇は、強行されるとすれば結構なことだが、その肚は疑はしい。」
一九二〇年の四月に、ゴータルスはかう語つた。「鐵道罷業、エレヴェーター運轉手罷業等々は、相當社
會を混亂に陥らせた。この狀勢を眺めてゐると、獨裁者としてやれる仕事をやりたくなくなつてくる。」

メキシコの軍事獨裁者オブレゴン大統領が、一九二一年ゴータルスをメキシコ・シティーに招待したが、
かれはそのとき、大統領と非常に愉快な數日を過ごしてきたらしい。その報告には、「私は非常な歡待を受
けた。メキシコの計畫が承認され、その資金計畫が確立されれば、われわれは、かねて望みの仕事を全部獲
得することができる。」とあつた。

けれども、それはかれの存命うちには實現しなかつた。ジョージ・ダブリュー・ゴータルス合資會社は、
いろいろな理由のために、つひに望みの仕事を全部獲得することに成功しなかつた。

一九一九年、ゴータルスはアメリカン汽船商會社の社長に就任し、その俸給を、共同者たちの間に分配
する共同収入に繰り入れた。船舶局から數隻の汽船を拂下げようといふので、ワシントンに向いたが、長
いことかゝつて、結局無駄足に終つてしまつた。一方、共同者のカーミット・ルーズヴェルトも、ブラジル
まで出掛けていつたが、これまた手ブラで歸らねばならなかつた。大戦ちうブラジル領海で沒收されたドイ
ツ汽船の拂下げを、フランス會社のために妨害されたからだ。やがて、會社の所有關係と方針が變つたため
に、ルーズヴェルトもゴータルス將軍も、そのアメリカン汽船商會社を辭任するにいたつた。これより
先、キユナード汽船會社は、工費三萬ドルの専用鐵道終點の建設工事を、一旦ゴータルス會社に請負はせ
ることに決定してゐながら、かれが競争會社の社長に就任するや否や、掌を返すやうにその決定を取消して
しまつた。これは決定的な打撃であつた。

ゲームの勝敗の分岐點は、スタートからフィニッシュにいたるまで、ゴータルス會社の不利に傾いた。け
れども、社長は決してその不運を怨まなかつた。ギブス「醫療用石膏」から縫針にいたるあらゆるものに手を

だし、小アジアから上海にまで及ぶ、各種の工事の調査をなし、三年以上も不断の活動を続けた後、かれは悵然として告白した。(一九二二年十一月)

「私の意圖はいゝのだが、実績はゼロであつた。……われわれはいつも、註文取りをする必要があつたのだ。……会社に註文がこないのに、われわれはくるだらうと當てにしながら、ちつと構へ込んでゐたのだ。」

この数年間の凶年とその後を通じて、快活で口の上手な紳士連の行列ともいふべきものが、ひつきりなしに、ゴータルスの個人事務所を通り抜けていつてゐた。この紳士連が事務所をなかへはひつていつては、こんな言葉を耳に残してでゝくる様子を眺めることは、共同者や社員連にとつては、確かに座興になつたに違ひない。

「私の名前が金集めに利用されるやうな仕事は、一切御免蒙ります。」とか、またほかの場合には、「資金調達とか、社債賣出とか、さういつたやうな問題は、一切御免蒙ります。あなたは、設立趣意書に私の名前をだしたために、お誘ひになつてゐるわけですか。」等々。

かれは遠慮會釋なく、ある計畫を「モンテ・カルロ」だと極めつけ、またあるものは、「商賣人の口上」だと圖星をさした。——これは、自分の性格のなかに巢喰つてゐる、ローウェルとマーク・トウェーインを知つてゐる證據だ。かれはたびたび手紙のなかで、「ストック・ジョツパー」【公事の名の下に私利を替むもの】

と「金融業界」を輕蔑してゐた。

ゴータルスが永眠した後、前合衆國檢事總長ジョージ・ダブリュー・ウィツカーシャム氏は、未亡人宛にかういふ追憶を書き送つた。

「最近数年の間に、公私の關係を通じて、たびたび將軍にお目にかゝるを得たことは、私の欣幸とするところであり、故人を知ること深くなればなるほど、いよいよ尊敬の念を高めた次第であります。貴女は、故人の御業績と卓抜なる御生涯に對し、定めし多くの禮讚に接せられることと存じます。こゝに、私の讚仰の言葉を附加へさせていたゞくならば、將軍は、あらゆる眞の偉人のもつ謙抑の徳を備へてをられました。そして、その眼識は明澄であり、眞實でありました。何ものも、故人の正邪の認識を妨げ、曇らすことはできませんでした。事の理非曲直に關しては、幾多の人々をして判断に迷ひ、つひに自己を欺むいて恥づべき妥協に奔らしめる、あの欺瞞的の中間地帯といふものが、將軍には全然ありませんでした。私は、かういふ人物が、もつと多く世に出でんことを切望して止みません。さういふ人々こそ、わが共和國のホープであり、頼みの綱であります。將軍は貴女と御令息方に、あらゆる遺産のうちの最大なるもの、——信用を遺されました。」

あるとき將軍が、ある熱帯の小共和國に廣大な土地を所有し、非常な權力を揮つてゐるあるアメリカ會社の社長の椅子を提供されたことがある。その會社は自社船の定期航路を有し、その國の各地に、鐵道、鑛山

工場、植民地、その他種々の財産を所有してゐた。会社は數ヶ所に築港し、ジャングルを切り拓き、分散してゐる所有地を一大經濟王國に統合する必要があつた。これはまさしく、ゴータルスの好みに合ふ事業であつた。かれはその將來を説明してくれた人々以上に、明瞭にその發展の可能性を認めた。その腦裡には、一足飛びに、數年も先のその様子が浮かび上がつてゐた。そのころ、かれは熱帯地へのホームシックに罹つてもゐたのだ。あのドロドロの雪溶けと、地下鐵と、スチーム煖房の部屋が嫌ひで堪らなかつたことは、繰返し繰返し手紙にいつてゐる。今こそ、ふたゝび椰子樹林を吹き抜ける貿易風の音を聞き、この新しい土地の河川を斬り従へ、防波堤を築く工事に選りだした、昔の運河従業員たちの、あの馴染みの日灼けた顔を眺められるのだ。

けれども、ゴータルスは、何かに非常に興味をもつてくるたびに、岩盤まで試掘坑を掘り下げてみるのが常であつた。間もなく、その会社が、先方の國民をどんな風に対遇してゐるかといふことがわかつたが、さうなると、もう何もかも、かれを乘氣にならせることができなかつた。「会社の幹部は、人間的要素に對する尊重を全然缺如してゐるらしい。」——これは、その當時のかれの手紙の一節である。

一九二三年の石炭飢饉に際しての、實踐的人道主義者たるゴータルスの功勞について、當時のニューヨーク州知事アル・スミスはかう語つた。

「かれは、われわれが炭坑罷業による、重大なる石炭危機に直面してゐる最中、州燃料管理長官に就任せられたといふ私の要請を、莫大な個人的犠牲を顧みず應諾された。そしてふたゝび、その行政的手腕と、決斷力と指導力とをもつて、州に對して、有効にして美事なる貢獻をなされた。」

「われわれは、痛む傷所の治療に當つてゐる。」かれは、その一月の手紙に書いた。「石炭不足を來したのは、一九二一年に、ニューヨークの船舶による送炭割當が、僅か六十パーセントに制限されて以來であり、ブロンクスとブルックリンは、それ以來非常に増加してゐる。市民は勿論、強制されない限り、コークス、瀝青炭を使用した方がないが、これはどうしても強制しなければならぬ。石炭問題は、州民の財布と住み心地に關係するので、當局は、もつとも困難なこの二つの點から攻められてゐるわけだ。煩さくて、神経の疲れる仕事だが、今日までのところは押通してきた。——だが、グラウンド・ホッグデー【二月二日の異名。アメリカの俗説に、この日アメリカ・モルモットが巢穴から出てきて、自分の影をみたら、六週間巢穴に逃げ込んでこないと傳へられ、その間險惡な天氣が續くと信ぜられてゐる】にはどうなるか、非常な關心をもつて眺めてゐる。」

二月半ばごろの手紙には、かういつてゐる。「石炭飢饉が非常に悪化した結果、非常な窮境に陥つてゐる州北部を視察してきた。州民が石炭がなくて困つてゐるのに、石炭を積んだ貨物列車が何本も素通りして、カナダにはひつてゆく。そこで私は、こちらの需要が満たされるまで、カナダに對して禁輸を斷行することを主張した。ハーディング大統領はその案を取上げず、あべこべに、われわれの方に對して、州際商業委員會の公聽が行はれてゐる。」

その数日後の手紙。——「われわれは寒波の猛威に曝されてきた。寒波は州全體に暴威を揮ひ、特に、降雪の多い北部においてはなほだしかつた。州民の苦痛は深刻化してきた。私はワシントンの政府と、その小田原評定にホトホト愛想が盡きた。土曜日に、區の燃料管理官に電話で、必要の事態に立ち到つた場合は、石炭を差押へるやうにと命令した。そして、差押へが開始されると、鐵道が石炭を吐き出した。が、この非常手段は悪結果を伴つた。といふのは、——市會が、管理官の注意を肯かず、獨立に差押へをはじめ、一層石炭飢饉の激しい、ダンネモラ行の一貨車を押へたからである。馬鹿者どもは全部引つ括つておけばいいのだが、さうもいがないので困る。……寒波の猛威はますます募つてきたが、特に、ブルックリンの貧民階級に對する影響はなほだしい。おまけに、風浪のために舳舟の運航が妨げられてゐるので、その日暮しの状態を續けてゐる。が、さらに悪いことには、最大の間屋の一軒が火事をだして、積み卸し装置を破損したために、ひどく能率が落ちてしまつた。それで、間に合はせの積み卸し装置を借りてやつたが、多少の手傳ひになるだけで、發送の能率は低下を來さざるを得ない。」

三月には、「州北部は依然として危機を續け、金曜日には、ワシントンからS・O・Sが飛んだ。が、その方面へは、大した困難もなく石炭配給の方法を講ずることができたから、かれらの恐れてゐる危機が、杞憂に終つてくれ、ばい」と願つてゐる。」

二十日附の最後の手紙に、ゴータルスは憤慨した調子でいつてゐる。「オルバニーに向いて、こちらが

解消の準備ができてゐることを知事に報告したいと思つて、二、三日の春のやうな氣持のいゝ日和を待つてゐたのだが、先方からはまだやつてこないで、どうでもかうでも、この木曜日には出掛けていつて、三月三十一日に解消を實行するやう、知事に上申するつもりだ。この仕事を止めることは非常に喜ばしい。なぜかといへば、この仕事ほど、思ふやうに実績のあがない仕事は、かつて手掛けたことがないからだ。」

ところが、スミス知事としては、それと違つた評價をしてゐたことは、單に燃料管理長官としてのゴータルスの功勞に對する讃辭だけではなく、かれが、六月に、新設の州土木事業監督の地位を提供したことによつても明らかである。將軍はそれを謝絶した。それは、ゴータルス會社の社長としてゝはないが、今後個人的業務に従事する方針に決定してゐたからだ。ゴータルス會社は、一九二三年の夏に解散した。

ニュー・オルリーンス商業會議所からは、兩沿岸連繫運河の通航船舶噸數の見積りを作つて貰ふために、將軍の出張を乞うてきた。エリー鐵道からは、リーディングに出張調査を依頼してきたし、シカゴ屠殺場の調査も依頼された。しかし、この時期の間、もつともかれの手腕が要求されたのは、カリフォルニア州においてであつた。

ロサンゼルス市では、將軍に依頼して、コロラド河に構築するボールダー峡谷ダムの豫定地を檢分して貰ひ、ネヴァダ州のラス・ヴェガス、ニードルズ及びブラック・キャニオンを視察させた。そのころ、ワイルドキャット峡谷の矮林から山火事が起り、強風に煽られて飛火したために、カリフォルニア州バークレーの大

部分が焼失した。そこで、その地方の住民は悉く、多年懸案になつてゐた、公共用水道を建設すべき時期がきたことを、はつきり認識するにいたつた。そこで、ゴータルス將軍とウィリアム・マロランドの二人が、イースト灣都市公共事業區の顧問技師に選任され、サン・フランシスコ灣内イースト灣岸の都市聯合に供給する、水道の水源を選定することになつた。長期に亘る調査の結果、決定案を得、モカラム河から水を引く工事計畫を完成した。ゴータルスは、ロサンゼルス郡防水區の顧問技師をも兼ね、バコマ、サン・ガブリエル峡谷の堰堤建設豫定地の實地踏査を行つた。また同様の資格をもつて、サンディエゴ市の理事から招聘を受け、同市の水道擴張工事に關係した。

「私はカリフォルニアに定住して、サン・フランシスコに事務所を開きたい。だが、それには歳をとり過ぎた。」かれはある手紙に書いた。

それに、東部にもまだなすべき仕事があつた。一九二五年の暮、ルイジアナ兩沿岸運河協會は、將軍に依頼して、メキシコ灣岸の産業調査を行つた。かれの最後に手掛けた重要な仕事は、フロリダ州の工事である。一九二六年の短かい期間であつたが、ゴータルスは、フロリダ州ハリウッドに築港工事を請負つてゐた、ある土木會社の顧問技師を引受けた。土地景氣が下火になりかゝつてゐたために、資金が集まらないので、三月にこの會社と手を切つた。最後に契約を結んだ相手は、ウォース湖口委員會で、仕事は、避暑、避寒地として有名なバーム・ビーチの新築港の設計、及び築港工事の監督であつた。

そこで將軍は、大西洋の水深の深い部分まで突き出した、二條の長い防波堤の設計圖を引いた。水路は、海洋の側から、バーム・ビーチの砂の多い島を、まつすぐに突切つて掘鑿し、ウォース湖を横斷して陸岸に達する豫定になつてをり、防波堤はその入口を護るわけである。港區に接する部分の水路は取り擴げて、船の廻轉の利く廣い錨地を造り、出入港の船舶のために、長方形の修船架を新設する。この修船架は陸岸に掘鑿し、その三方の岸壁には倉庫と上屋を建設し、引込線、及びフロリダ東海岸鐵道の本線と連絡する臨港線の列車發着所にしようといふ計畫である。

「設計と施工は、あらゆる點においてモダンである。」シドニー・ビー・ウィリアムソンが書いてゐる。「そして、工事は、ゴータルス將軍一流の、労働者の態度をもつて施工された。……契約の條項には、將軍が必要な技師及び現場監督をおくことになつてをり、さらに、病氣その他の事由により、本人が三ヶ月間現場に臨み得られざる場合、もしくは、この種の工事に經驗ある共同者を派遣し得ざる場合には、契約を取消すことを得るといふ條項があつた。將軍は、さういふ理由から、私に共同者になつてくれと依頼された。最初は、一緒に數回現場に出張した。その後、將軍が健康を害しはじめたとき、私が現場に詰めて、監督の任に當らうと申し出た。その後將軍は、つひに二度しか現場に出張することができなかつた。最後に顔をみせられたのは、一九二七年の六月であつた。」

ゴータルスが、イースト灣の水道工事の最後の檢分をするために、カリフォルニアにむけてニューヨーク

を出発したのはその月であつた。七月にニューヨークに歸つてきたとき、その年の早春以來悩まされた、同歸熱が再發したので床についた。ゴータルスが非常に信頼してゐた専門醫は、前から食餌療法を實行させてゐたが、今度は、健康回復に何より必要なのは、長期間の十分な休養だと申し渡した。

ゴータルスにとつていちばん辛い仕事は、何もしないであることだ。ちつと腰掛けて休んでゐられるひとつの場所は、ヴァインヤード海峡の、移動する激潮を瞰下ろせる、あの自宅のポーチであつた。かれはその激潮躍る眺望を眺めたいと思つて、三十年前にその家を建てさせた大工のホレース・ティルトンに、ウエスト・チョップ燈臺近くの海岸の、眺望のいい場所にその家を移させてゐた（一九二三年）。それは容易な仕事でなかつたが、ティルトンは、商賣の道はチャンと心得た、年期をいれたヤンキー大工であり、請負師である。二階建ての家を三つの部分に切り離し、それを、ヴァインヤードの骨の折れる長道二マイルをローラーで搬び、それから、新しい基礎の上に元通り組立てたのだが、非常に腕前がいいので、漆喰に龜裂ひとつ入らず、家ぢうの扉一枚、建付けの悪くなつたものがなかつた。かういふキチンとした仕事のできる人間は、まさしくゴータルスの精神を學んだ人間である。大工のホレース・ティルトンは、パナマ海峡のコリンズ神父のやうに、マーサ島のヴァインヤードでのいちばんの親友であつた。このニュー・イングランド人も、かつては運河従業員（ヤナリ）の一人であつた。かれは一九一一年から足掛け三年、ミラフロレス開門の普通大工の棟梁を勤めてゐたのだ。

世界大戦は、ゴータルスを第二の故郷の若い連中に接近させた。將軍は、アメリカ在郷軍人會ティスベリ分會第二五七號の特別會員であつた。序でながら、ティスベリーといふのは、その町の正式の名稱であり、將軍の自宅のあるヴァインヤード・ヘーヴンは、郵便局で用ひるティスベリーのアドレスである。分會では、隣町のゲイ・ヘッドからでた出征軍人を、全部登録してゐる。この町からは、徴兵でたものは一人もないが、志願兵が非常にたくさんでたので、ゲイ・ヘッドは、州内の大都市を通じ、人口に比較して、最高率の世界大戦出征兵をだした名譽ある町として、マサチューセッツ州知事から公認された。

小さな町の在郷軍人會分會の外には、もう地上のどこにも、デモクラチックな會合所はなくなつた。豫後備の軍人たちは、貧富も社會的地位の高下も、官職も現役時代の階級も問はず、絶對的平等の立場に立つて、そこに會合した。セオドル・ルーズヴェルトは、合衆國大統領在任ちう、オイスター灣（オイスター）のマティーン集會所に顔をだすことを楽しみにしてゐたが、その主人は、サガモア山（サガモア）の近くの所有地の園丁、「尊敬すべき兄弟ドゥティー」であつた。ゴータルスは、そのルーズヴェルトとちやうど同じやうに、ティスベリー分會の若い連中と、友だちづきあひをすることが好きであつた。

分會の名簿には、「戦友ゴータルス」の名が二つ載つてゐた。それは、長男のジョージも、その子のジョージ・ワシントン・ゴータルス二世の健康のために、このマーサ島のヴァインヤードに、夏期用の別荘を建てゝゐたからだ。この男の子は、將軍のたつた一人の孫ではない。それは、次男のトムもフランスから凱旋

した後、スウィートハートのメアリー・ウェップと結婚して、子供の親になつてゐたからだ。トム夫婦は、ブルックリンの家から、トミーとヘンリーと、赤ん坊のピーターを島にやつて、夏ちうをお祖父さんの家で過ごさせた。將軍はいつも、上の男の子二人を散歩に連れていつたり、帆走に連れていつたりした。それから秋になつて、孫たちを家へ歸してやつた後、折角馴けてやつたものを、親たちがみんな臺無しにしてしまふことだらう、と涙すのが常だつた。

けれども、その一九二七年の八月には、將軍も思ふやうに孫たちと遊べなかつた。まだ庭を歩き廻つたり、庭の薔薇の手入れぐらゐはできたが、もう、最大の楽しみであつた長歩きはできなかつた。左の大腿部が痛んで、だんだんひどく跛足を引くやうになつた。醫師は坐骨神経痛だといつて安静を勧めた。八月末に、二人の令息がヴァインヤードへ見舞にきて、トムが今外科を開業してゐる、ボストンへでゝきて、全身の身體検査を受けるやうに頼んだ。けれども、父はキツパリとそれを断はつた。

そして、九月はじめにはニューヨークに歸つたが、また間歇熱の發作に襲はれ、だいぶ調子がよくなつてから、大學俱樂部にいつて、ジョセフ・バックリン・ビショップ、シドニー・ビー・ウィリアムソンの二人の舊友と、後から思へば最後の會食をした。九月ぢうは、殆んど毎日、ウォール街四十番地の自分の事務所にでゝゐた。越えて十月の五日、將軍は他の技師たちと一緒に、ステータン島の新橋の竣工した橋臺を検分にいつた。これが、かれの現場の仕事の最後の日であるが、事務所へも、それつきり戻らなかつた。ホテル

の部屋から外へでることのできない體にはなつたが、毎日秘書をホテルに出勤させて、それから幾週間もの間、たくさんの仕事を處理してゐた。

十一月の中ごろ、症状が非常に悪化してきたので、將軍もつひに宛を脱いで、八月に息のドクトル・トマス・ゴータルスから勧められた、全身の身體検査を受けることを納得した。數人の立派な醫師の診断を受けた結果、エックス線検査によつて、癌といふ診断が確定した。緩和的な手術を行へば、數ヶ月間は壽命を延ばせるであらうが、それ以上見込みないといふことであつた。

數日の間は、本人に本當のことを聞かせなかつた。が、たうとうそのことを耳にいれたとき、かれは隠してゐたことを叱つて、かういつた。「醫者たちが、なぜ本當のことをいはなかつたのか、合點がいかん。事實を知つてゐる限り、暗闇を手探りさせられぬ限りは、どんなことに逢はうと恐れやしない。一時凌ぎの手術といふことだが、わしの體はそれに堪へまいと思ふし、手術をしたところで、その後生きていかねばならぬ期間、そのために活動力を失つてしまはにやならん。わしは、この病勢に立ち向つて、戦ひ抜いていく方がいゝ。」

かれは、最後まで戦ひ抜いた。ある療法を聞いてゐたので、それを試してみようといひ張つた。變化によつて害を及ぼす惧れはないし、かへつて患者の氣を引立たせる効果があることを承知してゐる醫師たちは、その主張に同意した。必要な設備をするために、東八十六街十二番地に一室を借りた。

十二月はじめの、美しく晴れ渡つた、暖かい陽の照る日、ゴータルスが自動車で、中央公園のなかを通つてそこへ運ばれてゆくとき、博物館の傍の日溜りで、できるだけ長い間日當ぼつこをしてゐたいとか、來年の一月五日に、ニューヨークを出帆してパナマに向ふ、昔の従業員仲間の一行に、形だけでもいゝから参加したいものなどと語つた。かれは、旅行用の白詰襟を新調するために、ヴァインヤードからもつてきた、一卷の古い白地の布地さへもつてゐた。

かれは以前から、エンサイクロペディア・ブリタニカの第十四版に、パナマ運河の項を執筆する約束をしてゐた。そして、ジョセフ・バックリン・ピショップの協力によつて、その約を果した。もう一人の舊友シドニー・ビー・ウィリアムソンは、築港工事監督のためにバーム・ビーチにいつてゐたが、地方當局を説得して、ゴータルスとの契約を解除させた。ゴータルス自身は、ニューヨーク港の委員会宛の手紙を口授して、辭表を受理してくれるか、或ひは無給で、無期限の休暇を與へてくれるかして貰ひたいといつてやつた。これは委員會の名譽のために記憶しておくべきことであるが、委員會は全員一致をもつて、ゴータルスは存命する限り、依然主任顧問技師の地位にあるべきものと決議した。——しかも、從來の二倍の俸給をもつて。

かれが口授した最後の手紙は、一九二八年一月九日、運河地帯バルボア高地の、パナマ運河知事エム・エル・ウォーカー將軍宛の手紙であつた。

ウォーカー閣下

昨年夏閣下にお會ひした節は、今週ニューヨークを出帆する、運河委員會と鐵道の昔の役員たち一行と再會して、一緒に地峽を訪問いたしたい所存でありましたが、病氣のため、この旅行に加はる希望は拋棄せざるを得ないことになりました。

一行のパナマ訪問ちうには、定めし全員が一緒に會同する機会があるだらうと存じます。私はその前長官として、現長官たる閣下を通して、愉快なる再會に對する満腔の祝意を表し、一行とともに列席するを得ないことを衷心遺憾とし、はなはだ失望してゐる私の心境を一同に傳へたいと存じます。この衷心よりの御挨拶は、アメリカから出掛けてゆく古顔の連中に對してのみならず、その後引續き勤續して、運河の建設期ちう、その共同の努力によつてなし遂げたと同じ成功を、運河の運営に持ち來すことに貢獻しつゝある人々に對しても申上げてゐるのです。いかなる組織の指導者といへども、その完成の原動力をなした、仕事に對する忠誠の精神と、その必要が起つた場合困苦に對して示された欣然たる理解と、當面せる困難の克復とにおいて、私以上に大きな誇りをいただき得るものではありません。そして、われわれのめざす目的實現のために、挺身奮闘してくれた人々に對して、私のいだいてゐるものは眞の情愛であります。

私は、閣下はじめ一同の上に思ひを馳せつゝ、一人々々に、心をこめた挨拶と心よりの敬意をお送りいたします。敬具。

ジ・ジョージ・ダブリュー・ゴータルス

その月の二十一日、バルボア高地では、ゴータルスに送る返事の起草委員会が選ばれ、次の書翰にそれぞれ署名した。

「閣下とともに、閣下の命のもとに働らいた男女のうちの一千人は、ウォーカー知事を通して送られた、一月九日附の閣下の御手紙を拜讀いたし、閣下が今なほ私どもを記憶してをられることに感激いたしました。私どもは、閣下がここに臨席されて、私どもとともに舊い誼を温ため、想ひ出を新たにすることを喜びを願はれるとともに、閣下の御指導の下に完成され、かつ、閣下が何人にもまさる偉大なる貢献をなされた工事が、いかに美事な成功を収めたかを、閣下御自身の眼をもつて、親しく實見されんことを望んでをります。

閣下のかつての御活動の舞臺に、この訪問が行はれたに際して、私どものいだいてゐる二三の感想を述べさせていたゞきたいと存じます。數年前、大部隊の労働者軍は、人類の進んで止まぬ文明の行く手を遮ぎる、自然の大障壁を取除くために、熱帯の太陽の下に熱心に働らいてをりました。その成功は、閣下の御指導とかれらを鼓舞して、祖國の目的達成に打ち込ませた、不撓不屈の愛國的精神と、パナマ共和國及び國民の友誼的協力との賜でありました。障壁はかくして取除かれ、それによつて、人類は一層豊かになりました。その建設軍の一員たりしことは特權であり、その指揮者たりしことは不滅の名譽であります。私どもはここに、わが指導者たる閣下に對して、衷心よりの御挨拶を申し上げます。

往時の運河従業員一同

委員

フランク・フェール	シー・シー・カー
エチ・オー・コール	ウィリアム・ギルバート
ジョン・オー・コリンズ	フランク・エチ・ワン
アール・エム・エルダー	ジョージ・ダブリュー・グリーン
アール・エチ・ホワイトヘッド	

起草委員は全部署名した。が、かれらはその挨拶状を送らなかつた。それは、ちやうどそのとき、「大佐」が永眠したといふ知らせが地峡に着いたからだ。

第十八章 最後の榮譽

ゴータルス將軍は、一九二八年一月二十一日の土曜日、正午五分前に永眠した。將軍は、枕頭に看護してゐた人々を知らなかつた。それは、臨終まで四十時間の間、意識不明に陥つてゐたからだ。

病氣のことはすこしも知らずにゐたが、最近数年間は、その活動の消息もあまり耳にしてゐなかつた世間の人々は、將軍永眠の報に接して驚愕に打たれた。

「ポストン・トランスクリプト」紙は、かういふ記事を掲げた。

「ゴータルスは、わが國內以外のどの國においても、最高の名譽稱號と物質的褒賞とを授けられたであらう。それがわが國においては、公務を引退して、精々才能相當の収入を得るために、私的業務に従事せざるを得なかつた。しかも、かれが公務を引退するや、その功勞によつて益するところ絶大であつた國家は、直ちにかれを忘れはじめたのである。或ひは、少なくともさうみえた。——しかし、その名は、歴史の頁には、永遠に燦然たる光輝を放つであらう。」

クリリッチ大統領は、ゴータルス未亡人にかういふ弔詞を送つた。

「斯界の逸材たる御主人の御永眠は、多數の御友人の間のみならず、一般國民の間にも、廣く悲歎の情をいだかせました。

この御不幸に際して、私は貴女並びに御遺族御一同に對し、私及びわが國民の御同情の念を披瀝いたしたいと存じます。

ゴータルス將軍の名は、技師長としてのパナマ運河の建設、及び、運河と運営を運河地帯の行政とを、その成功の原動力をなせる、特に優れた能率的基礎の上におかれた偉大なる功績によつて、全世界に記憶されるであります。しかし、將軍の手腕と天才とは、他の事業においても、同様に顯著なるものがありました。特に、將軍が當然の退役生活から現役に復歸して、各種の活動に偉大なる才幹を發揮された世界大戰の時期を通じて、その手腕と天才とは、政府にとつて無限に貴いものでありました。

全世界に知られた將軍の名は、國家のために偉大なる功績を樹てつゝある人々とともに、永遠に服役名簿の上に残るであります。

カルヴァイン・クリリッチ

陸軍長官ドワイト・エフ・デヴィス氏は、「軍隊においては、將軍は、その技術的實力と統率の才の両方において重んぜられ、尊敬された。」と述べた。參謀總長サンマロール少將は、ゴータルスの業績を概説し

た後、かう結んだ。「平時においては、將軍の精力と手腕とは、國家の繁榮の推進と國民の福祉の増進に用ひられ、戰爭に臨んでは、アメリカの權利と自由の保證のために用ひられた。陸軍は、その功績に對する景仰と、人格に對する尊敬と、提携協力に對する愛とをもつて仰いでゐた人物の計に接して、明らかな人的損失を痛感してゐる。」

「ゴータルス將軍には、説明のつけ難いやうな點がある。」工兵團司令官のジャドウィン少將の評である。「將軍は、私の知る限りにおいて、およそつとも精力的な活動家であつたといつてよからう。かれは、大して眼にみえる努力を拂はずに、仕事といふ仕事の最大の仕事を、美事に完成した。かれは社交家ではなかつた。單に家族と、友人と、自分の仕事を愛する人であつた。しかも、かういふ人物でありながら、工兵團の生める、最大といつてもいゝ行政家であつた。」

「ジョージ・ワシントン・ゴータルス將軍の御永眠によつて、ニューヨーク州は、國家と同様一人の著名な公僕を喪つた。」と、州知事アル・スミスは語つた。「將軍は、ニューヨーク港務局主任顧問技師としての任務に、かれをしてパナマ運河の天才たらしめたと同じ、専門的睿智を傾注された。」

將軍は、われわれが炭坑罷業による、重大なる石炭危機に直面してゐる最中、州燃料管理長官に就任されたいといふ私の要請を、莫大な個人的犠牲を顧みず應諾された。そしてふたたび、その行政的手腕と、決斷力と指導力とをもつて、州に對して、有益にして美事なる貢獻をなされた。

將軍は、偉大なる人格の永遠の記憶と、偉業の光輝ある記録を遺された。」

汎米聯盟、ニューヨーク港務局委員會、その他將軍が顧問技師を勤めた多くの都市の委員會、商業會議所、インディア・ハウス、英國土木學會、オランダ技師協會、その他かれを名譽會員とする各種の團體は、弔辭と讚辭を送つた。

個人から送られた弔詞は非常な多數に上つたが、こゝには、そのうちの一通だけを引用しておかう。——インガンソル・ランド會社々長ウィリアム・ローレンス・ソーンダース弔詞の一節。

「私は、將軍の辱知の榮を得たことを誇りに存じます。それは、將軍は、自らの働らきと才能とによつて名譽を贏ち得られた、稀にみる偉材だからであります。私は、管理者、行政官として將軍に比肩し得る人物を知りません。將軍は、人の使ひ方と、人を使つて最善の結果をあげる途を心得てをられました。パナマ運河こそ、將軍の記念碑であります。」

パナマ運河知事ウォーカー少將は、かういふ談話を發表した。

「偉大なるパナマ運河の建設者にして、われらすべての敬愛措く能はざりしジョージ・ワシントン・ゴータルス少將が、ニューヨークにおいて逝去せられたることを公表することが、私の悲しむべき義務となつた。この偉人を親しく識る特權を得てゐた人々は、その永眠によつて、永遠の人的損失を痛感してゐる。それほど密接な接觸をもたなかつた人々は、運河の建設期と、開通後最初の數年間に互り、その懿徳によつて、自

分らの努力を鼓舞した人物の永眠を哀悼するであらう。

ゴータルス將軍の生涯は、永遠に、アメリカ青年のために、眞の愛國心と剛毅の精神の道を照らす、耀やける篝火となるであらう。神よ、將軍の靈を安らかに慰はしめたまへ。將軍は、祖國と同胞のために捧げた高潔、有功にして無私なる生涯といふ、貴重なる遺産をその遺族に遺された。すべての人の胸は、ゴータルス夫人並びに二令息に對する、深き哀悼の情に閉されてゐる。

將軍との再會を心待ちに、心こめたメッセイジを送らうとしてゐた、パナマ運河とパナマ鐵道會社の従業員は、早速懇篤な弔電を打つた。

「ワレラガ前指揮者ノ御永眠ニヨツテ、運河従業員軍ハソノ愛慕スル友『大佐』ヲ喪ヒ、一同深キ哀悼ニ閉サル。將軍ノ高德ハ、ワレラノ生クル限り、幸福ナル想ヒ出トシテ残り、コノ地ニオケルソノ偉業ハ、永ク世界最大ノ技術者ノ一人ノ記念碑トシテ殘ラン。ワレラハコノ最大ノ御不幸ニ際シ、貴女並びニ令息ニ對シモットモ深厚ナル哀悼ノ意ヲ表ス。」

一九一一年に、パナマ地峽で見習技師を勤めたロシア人が、レニングラードから、ブラジルのジャングルからでゝきて、ずつと遅れてゴータルの訃を知つた一アメリカ人が、バヒアから、遠く近くの各地から、運河の前従業員、現従業員らが、弔問の言葉を寄せた。運河地帯の金屬工評議會は、その正式の哀悼決議にいつてゐるやうに、「正義と、デモクラシーと、その監督下にある従業員の幸福に對する同情ある關心といふ、

人に優れた美德は、パナマ運河の建設に發揮された」ことを銘記してゐる。

けれども、全運河従業員のうち、銀建て貨銀の黒人労働者ほど、深く「大佐」の訃を悲しむべき理由をもつたものはなかつた。

「大佐」が世を去つて、十萬億土の偉大な先哲の列にはひつたといふ報道が、西インド人たちの耳にはひつた。——かれらは、運河の建設工事に、最大量の筋力と、少なからざる腦力とを、恭やしく提供した。大小アンチル諸島生れのニグロである。「大佐」は、この火曜日に、他の北アメリカ人の名士らの傍に葬むられたといふ報道があつた。かれの命の下に働らいた、パナマ運河とパナマ鐵道會社の、これら西インド・ニグロ労働者の魂は、確かに、ウエスト・ポイントにむかふ葬列の葬送者のなかに、眼にみえぬ一隊をなして、その生前眞心から捧げられた、あの熱烈な讃仰の念を捧げたことであらう。^(註)

(註) A. F. N氏、「パナマ・スター・アンド・ヘラルド」紙、一九二八年一月二十四日

「われらは、その才能によつてパナマ運河を建設せる故人に對し、誠心誠意、飾りなき讃仰の念を表する。かれがこの事業を完成したのは、主として、かれが監督者に選ばれた大工事の、最下級従業員の權利を故意に僭稱する何人に對しても曲解を許さなかつた、高潔を極めた人格を所有された結果である。」^(註)

(註) パナマ市「労働者」紙、一九二八年一月二十八日

「この悲報に接して、われわれは有色人、白色人の労働者等とともに、深く胸を打たれた。それは、われ

らも將軍を愛し、尊敬してゐるからだ。かれの他の美質はしばらく措き、かれらが愛するのは、將軍が正義の士であるが故だとすれば、われらは、確かに一層かれを愛せねばならないからだ！ われらの生くる限り、あの白髪の老人の姿を、われらの胸にはつきりと浮彫りするものは、鐵の意志と、哲學者の理解とを後盾とする、かれの正義感である。^(註)

(註) エス・エチ・ホワイト「パナマ・アメリカン」紙、一九二八年一月二十九日

正義の士、賤しきもの、保護者、哲學者の理解をもつた、鐵の意志の統治者、——そこに、流行の英雄崇拜の、お馴染みの姿がある。その昔、善政を謳はれた立派な王の姿が浮かんでくる。かういふ英雄崇拜は、將軍の時代には盛んであつたのだから、單なるロマンティックな回顧主義の感傷的な妄想として片づけ去るわけにはいかない。

「かれの人を見、人を使ふ才能は、恐らくもつとも貴重な天稟であり、運河の美事な完成を齎らした、絶大な重要性をもつ要因であつた。かれは、厳格な監督であつたとはいへ、渝ることなく毅然として正義を堅持し、かつ、善意を認め得る場合には忍耐した。その長年に互る在任期の終りころには、部下のかれに對する讚美は崇拜の形をとつてゐた。^(註)

(註) パナマ運河知事、退役陸軍大佐ジェー・ジエト・マローの、ニューヨーク市アメリカ土木技師協會ニューヨーク支部における講演（一九二三年一月十日）

かれは、飽くまで自己の理想に忠實なることによつて、また、ウエスト・ポイント士官學校の一九一二年級卒業式における演説のなかに述べた、行動規範を遵守することによつて、信奉者たちの忠實な信仰を贏ち得た。——

「諸君に課せられるもつとも重要な任務は、兵の統率、指揮及び命令であります。苟しくも仕事を完全に仕遂げようとするれば、それに對して自己のベストを盡すのみならず、諸君の指導の下にある人々にも、仕事に對してベストを盡させることが必要であります。それには、諸君がまづ、その企圖に對して自信をもち、それを成就する自己の能力に自信をもたねばならない。これが、部下のものと同じ感情を鼓吹する原動力となるのであります。諸君は、かれらの能力を正確に知るのみならず、仲間の人間としてのかれらの必要と権利とを、正しく理解し、完全に承認しなければなりません。言葉を換へていへば、かれらを人類の大社會の同胞として待遇し、あらゆる待遇において、思ひやりをもち、正義で、公平であれといふことであります。不満をいなく軍隊で、忠誠なるものはめつたにない。そして、その不満の原因が不當な待遇を受けたといふ感じに存する場合には、その軍隊は斷じて能率的ではありません。指揮者の能力に對する信頼も、それがかれの正義に對する信頼と結びついてゐなければ、大して役に立たないのであります。この二つのものが結びついたとき、そのときにおいてのみ、あの熱意といふ、抵抗し難く、抑へ難い精神が、仕事に對する、あの個人的興味と誇りとが盛り上がるのであり、その力こそ、軍民のいつれたるを問はず、その團體の成員

一人々々を鼓舞して、いざといふ場合に、自分も譽れをともにする名譽の勝利を獲んがために、倒れて後止むの勇猛心を發揮させ、最後の血の一滴までも捧げさせるのであります。」

ここに、數々の勝利の名譽をともにしたものをして、ゴータルスが、その仲間の人間からいかに強い信頼を受けてゐたかを證言させよう。パナマ運河工事には、數千のヨーロッパ人が雇はれてゐたが、かれらの間には、食事や宿舍について、アメリカ人の工夫頭や技師から與へられる待遇について、だいぶ不平があつた。が、直接に大佐に不平を訴へることはできなかつた。といふのは、大佐はスペイン語やイタリア語や、現代ギリシヤ語などを知らなかつたからだ。が、そのうちにかれは、この三國語とも流暢に操つれる上に、まだたたくさんの國語を話せる人間をみつけた。ギリシヤ人の農民のなかには、その人と一緒に、テッサリアで軍隊生活をやつたものもあり、スペイン人は、かれを非常に禮儀正しい、思ひやり深い騎士として仰いでゐた。イタリア人勞働としては、この、イタリア統一の英雄、ジュゼッペ・ガリバルディの同名の孫に優る、親身な、自分らの權利と自由のチャンピオンをみいだすことはできなかつた。

ガリバルディは、六十日の間に一切の誤解を一掃し、あらゆる不満を鎮靜させた。かれは地峽で二年暮らした後、メキシコのマデロ援助に乗出し、さらに、家門の傳統に従ひ、ガリバルディ兵團を指揮して、フランスのために戦つた。そして、ドイツ帝國をして、生死を問はず、かれの捕縛に對して一萬ドルの賞金を懸けさせるといふ名譽を荷つた。

ジュゼッペ・ガリバルディ將軍は、ゴータルスが逝去したとき、その嗣子に弔詞に送つて、いかにもかれにふさはしい騎士らしさをもつて、去りゆく英靈に會釋した。

「われらが弔旗の蔭に、久遠の運河の夢のうちに、そして、その下に働らけるすべてのものゝ信仰と愛のうち、貴下の偉大なる父は常に生くるであらう。」

この一句のうちに漲ぎるものこそ、パナマ運河を建設した勝利の大軍の精神である。

マーサ島のヴァインヤード・ヘーヴンでは、ティスベリー分會から在郷軍人會葉を贈り、二令息は、一九二八年の南北戦争戦死者記念日に、恭やしく父の墓前に供へた。分會員全員の議決によつて、分會の名稱は「ジョージ・ダブリュー・ゴータルス分會」と改稱された。會員の提案によつて、ゴータルスの逝去後葬儀が行はれるまで、たゞ一軒をのぞいて、村ちう戸毎に半旗を掲げた。一本の旗竿だけは、葬儀開始の時間まで、旗が飄がへつてゐなかつた。いよいよ葬儀の時間がきたとき、棟梁のホレース・ティルトン、その他少數の親友たち、隣り近所のものが、ゴータルスの家にはひつて、將軍がかつてサン・ファン・デ・ポート・リコの屋上高く飄がへしたゆかりの星條旗を取出し、その邸前の掲揚柱に一旦高く飄がへしてから、すこし引き卸して半旗に掲げた。掲揚柱の基部には一個の花環を供へ、一同は頭を垂れて、しばらく佇立してゐた。それから一同は、集まつたときと同じやうに、無言のまゝ別れ去つた。これこそ、心からなる手向けであつた。

醫師たちが、ニューヨークからあるほかの都市に移つて、治療設備のもつとも完備した病院で靜養するやうに勧めてゐたとき、ゴータルスはかういつて抗議した。

「こゝにゐさせてくれ。こゝにゐれば、ずつとウェスト・ポイントに近いんだから。」

すこしでもウェスト・ポイントに近いところにあたい、といふ死に臨んでの希望は、ゴータルスの全生涯と全人格の縮圖である。かれにとつて、一人前になるまで育まれたあの士官學校ほど、身近かなつかしい場所は、またと地上になかつたのだ。年を経るに従つて、社會に對する知識と理解とは、いや増しに増大していつたが、かれは決して、青年時代の理想、——あの母校の頑固な理想から逸れることがなかつた。

かれは、一切の倫理問題に對する答解を、花崗岩の盾に刻んだ三つの言葉、——「義務」と、「名譽」と、「國家」から讀み取つた。

アリストートルなら、かれを理解したであらう。こゝに、その一生を永遠の眞理の上に築き上げた、剛毅な魂をもつた人物がある。シャーマンとルーズヴェルトとは、かれを理解した。亂暴な運河労働者も、かれを識つてゐた。——たゞ惻巧者の俗物だけは、全然かれを理解できなかつた。かれらの眼に映つたものは、利用價值ある名だけであつた。その名こそ、一千年の間、連綿として穢されたことなき家名である。かれらには、ウォール街四十番地の事務所にゐる、一人の非常に敏腕な行政家、財産を作るために、かれらにいはせれば、ちつと身を屈して、こつそり儲けるために、——現役を退いた有名な技師しかみえなかつた。かれ

らの眼は、あの當直の生徒班長の姿がみえなかつたのだ。——同級生たちはみな、自分らの計畫した悪戯を用心深く隠してゐた。それは、巡視ちうに発見した一切の規則違反を報告すれば、班長の名譽になるのだからであつた。ゴータルスは、半世紀の久しきに亙つて、絶えず、ますます固くウェスト・ポイント精神を守らうと努力し續けた。一九一二年級の卒業生に對して戒しめたやうに、「士官學校、或ひは陸軍の名譽にかかはるやうなことをしでかさぬやうな生活をする」ことが、かれの生活規範であつた。「外部の社會は、われわれが與へる印象によつて、われわれの軍務と母校の價値とを知るのであり、この學校が諸君に吹き込まうと努力した、名譽、自己犠牲、犠牲、義務に對する献身といふ理想を、飽くまで守り通すことは、その外部の社會のお蔭であり、われわれを教育してくれた國民のお蔭によるのであります。」

「名譽」——異教徒と刃を交へた、祖先のローマ人ホノリウスの名が、ちやうどそれである。「献身」——それは、聖都の城壁を攀ぢ登る、若い十字軍の勇士の姿である。「犠牲」——敢然海賊團に挑みかゝつた、拷問に苛なまれる捕虜。「自己犠牲」——この言葉は、都市の城門で金銀貨の贈呈を刎ねつけた學者の姿を彷彿させる。ゴータルス家の祖先たちの理想は、そのまゝかれの母校の理想であつた。かれの生ある日の終りに、「部署を離れ！」の喇叭が鳴り響いたとき、その靈魂は、安らかに、シオンの平原の逍遙に入つたのだ。

遺骸は、かれが生徒時代禮拜をした、オールド・チャペルに安置された。この禮拜堂は、工兵團が擴大さ

れたために、久しい以前から手狭になり、今では、在郷軍人會分會共同墓地の遺骸安置堂に充てられてゐる。禮拜堂の外には、その名世界に遍ねきこの征服者が、生前指揮したすべての部隊、——生徒隊のB中隊と工兵分遣隊（後のE中隊）が、整然と増列してゐた。これらの部隊が、將軍を送るにふさはしい儀仗隊を勤めた。

士官學校長、分遣隊指揮官、士官學校評議會の職員、士官學校及び在郷軍人會分會の將校、ニューヨーク港務局の代表一名、ニューヨーク市立大學及び同大學同窓會代表として、最古參職員のルイス・セイヤ・バード教授、ほかに少數の親友たち、——直接の遺族のほかは、これだけの人々が葬列に従つた。シドニー・ウィリアムソン外數人の舊友は、いづれも重病のために參列できなかつた。

名譽松衣保持者は、世界大戰當時の參謀總長マーチ將軍、チャールズ・イー・ヒュイット、チャールズ・ジェー・ベイリー將軍、ジョージ・ダブリュー・グッド大佐の、一八八〇年級の同期生が三人、地峽運河委員會のルソー提督、ホッヂス將軍及びジョセフ・バックリン・ビショップ、それから、一八七九年級のフィッパガー大佐であつた。

ニューヨークのインカーネーション教會の牧師で、ゴータル將軍多年の友人であるホレス・パーシー・シルヴァー師は、ヨハネ傳第十四章の一部を朗讀し、會衆とともに主の祈りと使徒信經を齊誦した。

「愛する主よ、爾のこの逝ける僕によりてなされたる、輝やける奉仕の故に、われら爾に謝す。」

これこそ、實に他にまさるものなき頌辭であつた。

祝禮終るや、六人のヴェテラン工兵下士官は、國旗で覆はれた柩を肩に擔ぎ、禮拜堂の前に待ち受けてゐた彈藥車に移した。靈柩彈藥車の後には、長靴を逆さに鐙につけた、乗手のない馬が、手綱をとられて従つた。葬送者と儀仗隊は定め的位置についた。士官學校軍樂隊の間から、「サウロ」ちうの「死の行進曲」の、胸を打つ、沈んだ哀調が流れる。最後の敬意を表する、弔砲の音が殷々と響いてくる。そのなかを、半歩刻みの擦り足を運ぶ葬送者たちは、戦ひにあらぬ數々の勝利をあげた、この武人の亡骸を、幾多の戦ひの英雄たちの間の、名譽ある場所へと搬んでいつた。

白衣の牧師が、最後の祈りを捧げた。

花をもつて飾つた墓穴の上に、耳をつんざく齊射が、三度轟らいた。それから、殷々たる反響を貫ぬいて、喇叭手が消燈喇叭を吹き鳴らした。

平和の業と戦ひの訓練に育きまされし、

國の子らこゝにあり。

何事の起りくとも、この國の、子らの國の、
召しに應へて、力の限り責果たさんと、

第十八章 最後の榮譽

心雄々しく、意は順へる。

撒き散らせよ、われらが歴史の豊けきページの上に、

その子らが雄々しき勳綴れる記録を。

子らが母校は、これぞわが子と、誇りが語る。

母校よ、世々に、かゝる子らをぞ生みいでよ。

— エドワード・エス・ホールデン

一八六九年級

— 了 —

昭和十六年一月二十六日印刷
昭和十六年一月三十日發行

パナマ運河
定價二圓七十錢

譯者 早坂二郎

發行者 東京市神田區神保町一ノ三九
栗田 確也

印刷者 東京市牛込區改代町二四
田中末吉

(刷印所刷印社恵理)

發行所

東京市神田區神保町一ノ三九
振替東京一三三四番
電話神田代表二二六一(五)

栗田書店

栗田新輯 I
高山洋吉譯

菊判並裝美本 一四〇頁
定價一圓二十錢送料九錢

ヒトラー

わが闘争の展開

ベルサイユ體制の桎梏からドイツを解放する主張は、ナチズムの綱領の二大支柱の一つであつた。ナチズムのこの國權回復—伸張の運動の歴史的意義について各々議論の餘地もあらうが所謂民主主義舊體制の存続によつてヨーロッパの民衆が苦しめられるのは一層顯然たる事實である。ナチ黨が政權につくや直ちにこの綱領の實行に着手した。かくして第二次ヨーロッパ戦争は本舞臺に入つた。本書は今次戦争開始以來のヒトラーの重要演説の總てを集めたものである。従つてこれらの演説は現在のドイツの政治及び戦争政策の最高指導方針を示すものである。世界の新秩序は今や狂瀾怒濤の中に生れつゝある。そしてドイツはこの中であつて紛々とも一定の歴史的時期に互つて最も重要な役割を演ずるであらう。従つて本書は一個の歴史的記録でもある。

東京市神田區
栗田書店
振替一三一四三番
東京四番

栗田新輯 II
栗田編輯部譯

菊判紙裝美本 一五〇頁
定價一圓三十錢 送料九錢

バルカン・トルコ

バルカンは大きくもないその地域の中に、民族、宗教、政治及び經濟の無數の問題を包含してゐる。バルカン問題は此一世紀に互つて世界政治上最も大きな凝雲とされて來た。

著者はバルカン問題の權威であり、劈頭に於てトルコ支配前のバルカンの状態を敘述してその内包する問題を剔抉し、續いてこれらの諸民族が次々にトルコの屬絆を脱して行つた過程、同時に彼等がヨーロッパ政治に引き込まれた過程を取扱ひしかも詳細なる經濟統計の裏付けをもつてしてゐる。

歐洲列國にとつて政治上軍事上重要なこのバルカン問題を世界戦争一年間に於ける動向及び列強の「東南政策」とを解剖する本書はバルカン問題の理論と展望に不可欠の鍵を與へるものである。

東京市神田區
栗田書店
振替一三一四三番
東京四番

26110

(呈進録目細詳) 書行刊店書田栗

大原社會問題研究所譯	ナチス獨逸の經濟的發展	二・三〇
大原社會問題研究所編	獨逸社會政策と勞働戰線	三・一五〇
ロジャーズ著 大原研究所譯	インフレーションの統計的研究	五・二八〇
木村孫八郎著	新聞經濟面の讀み方(金融篇)	二・一五〇
同	同(產業篇)	二・一五〇
同	同(相場篇)	二・一五〇
同	同(財政篇)	二・一五〇
同	同(貿易篇)	二・一五〇
千葉龜雄編	新聞辭典	二・一五〇
外村史郎編	訂改 新聞辭典	二・一五〇
アントン・チシカ著 高山洋吉譯	ロシア語辭典	二・一五〇
コム・アカデミア 經濟學研究所著	棉——世界木棉戰——	一・九〇〇
文學アカデミア註譯 八住利雄譯	貨幣と信用	三・三五〇
ハウゼンシュタイン著 阪本勝譯	裸體藝術社會史	四・三五〇
トルストイ	最後の日記	二・三八〇

終

